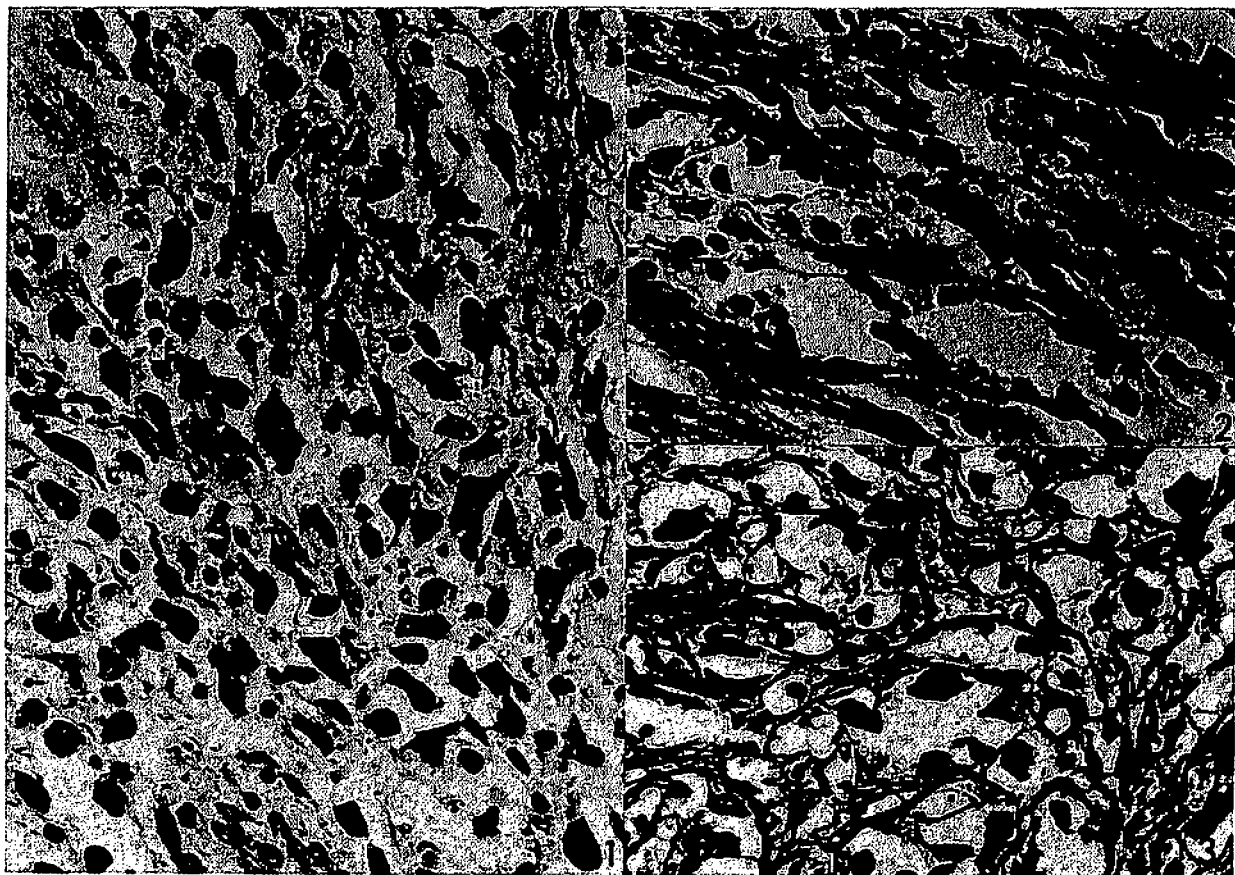


# 牛の子宮における細網肉腫（牛の白血病）

岩手大学家畜病理学教室出題

第19回獣医病理学研修会標本302



動物：黒毛和種，雌，5才。

臨床：1976年4月種付時に骨盤腔内の異常を認めた。

当時下痢，食欲減退。5月13日家畜保健衛生所により白血病と診断，5月14日岩手大学に搬入。水様下痢，食欲消失，RBC550万，WBC11,400(細網細胞型異形細胞1.5, Ly24.0, Neut73.5, Eos0.5, Mon0.5, Bas0%)。15日元気消失，流涎，呼吸不規則，第一胃音微弱，体表リンパ節の腫大ほとんどなし，直検により骨盤腔内に大きな腫瘤多数触知。17日後軀踏踉，殺後剖検に付す。

剖検診断：放血殺 1.全身リンパ節の腫瘍性腫大(特に腸骨リンパ節，腸間膜リンパ節等) 2.粘膜下，漿膜，脂肪織等における新生組織(骨盤腔，腎周囲，腸間膜，輸尿管周囲，前胃及び第四胃，膀胱，子宮，膻，胸腔) 3.肝臓，腎臓等における新生組織 4.全身血液リンパ節の腫瘍性腫大 5.腸間膜，腎臓周囲における限局性脂肪壊死 6.脳橋軟膜下出血 7.第四胃粘膜の潰瘍。

子宮は内腔に淡黄色のクリーム状無臭の内容物を中等量認め，内膜滑沢，壁の厚さ2cm前後，灰白色髓様の新生物が結節性ないしびまん性に増殖。

組織学的所見：本例は前記の如く末梢血液中に異形細胞がほんのわずかしら認められなかった症例であるが，全身の臓器・組織に細網細胞型腫瘍細胞の浸潤並びに増殖が見られ所謂牛の非白血性白血病に属するものであ

た。今回提出した理由は，子宮における出現細胞が，他の臓器・組織に出現した細胞に比して異形性が強く，他の腫瘍との鑑別が必要とされたからである。即ち，子宮では粘膜固有層及び筋層に腫瘍細胞が不規則・び慢性に浸潤増殖していた。細胞は大小不同で，大型・不整形の核を有し，大型核仁を1・2個認めた。染色質は疎少淡明で泡状核を示すものもあった。細胞質もしばしば明視され，弱好塩基性で突起を有していた(Fig 1, HE,  $\times 480$ )。一部線維芽細胞様に細長く伸長するものも認められた。特に筋層では腫瘍細胞は筋線維の間に深く浸入し，あたかも筋線維からの移行を思わせるものすら認められた(Fig. 2, HE,  $\times 480$ )。銀染色及びVan Gieson染色により，腫瘍細胞の間にそれぞれ銀好性線維及び膠原線維が多数増殖していることが証明された(Fig. 3, 渡辺の鍍銀法,  $\times 480$ )。一方他臓器における腫瘍細胞は同じく大小不同を呈したが，核・細胞質共に子宮のものよりやや円味を帯び，一般に異形性の弱いものであった。

以上，牛の白血病の中で臓器によりその異形度が異なるものとして注目された。

診断：牛の子宮において異性の強い腫瘍細胞の見られた細網肉腫(牛の白血病)